

⑫⑬⑭⑮⑯「橋本雅邦」⑦「図按法」一〇三⑤⑦⑨⑪、その他

黒川真頼「東大寺正倉院の話」①「法隆寺建築説」一〇三⑨⑪

「蒔絵説」⑦「織物説」⑬、その他多数

川崎千虎「本邦武装沿革考」一〇七二①②③断続的に寄稿、「絵所

預家」⑦「絵合考」⑳「金工横谷氏」⑳「是真」⑳、

その他

福地復一「法隆寺伽藍縁起流記資財帳」②⑤「伎楽面」③④「能面の

説」⑳⑳「模様考」一、二⑤⑦⑧「印度古代の美術」一

〇四⑨⑩⑪、その他

小杉楓邨「上古中古に渉る美術物品の支那及び朝鮮に關係ある略

説」一〇三⑨⑩⑪、その他多数

## 第二節 明治二十三年

東京美術學校第二年報 明治廿三年分

### 學規

本年三月十九日本校規則中學科課程第三條普通科第一年第二年和漢文ノ後へ體操同三時ノ五字ヲ追加シ又學年學期及休業規程ヲ學年及休業規程ト改メ其第一條第二條並ニ試業及證書規程ノ條ヲ左ノ如ク改正ス

### 學年及休業規程

第一條 學年ハ九月十一日ニ始マリ七月十日ニ終ル

第二條 休業ハ十二月二十五日ヨリ一月七日ニ至ルニ週間七月十

一日ヨリ九月十日ニ至ルニ箇月トシ日曜日及左ノ祭日祝

日ハ休業ス但祭祝日ハ從前ノ通

### 試業及證書規程

第一條 學年試業ハ每學年ノ終ニ於テ之ヲ行ヒ其成績ト平常課業

ノ成績ヲ二倍シタルモノトヲ比照シテ合格ノ者ハ進級セ

シム

平常課業ノ成績ハ一學年間課業ノ成績ニ由リ受持教員ノ

見込ヲ以テ之ヲ定メ又臨時試業ヲ行ヒ之ヲ定ム

第二條 學年試業ニ缺席ノ者ハ進級ノ格ヲ失フモノトス

但疾病其他止ムヲ得サル事故アリテ缺席スル者ハ一週間以内ニ其事由ヲ詳記シ保証人連署ノ上試業ヲ願出ツルトキハ平常課業ノ成績優等ノ者ニ限り之ヲ許スコトアルヘシ

第三條 學業及品行共ニ殊ニ優等ナル生徒ヲ選ヒ之ヲ特待生トナシ證狀ヲ与ヘ一學年ノ授業料ヲ免除ス

第四條 普通科及専修科所定ノ課程ヲ履修シ試業ヲ完了シタル者ニハ各其卒業證書ヲ付與ス  
生徒在學中ノ學業操行等殊ニ優等ノ者ニハ卒業ノ際其證書ヲ付与ス

八月三十日本校規則左ノ如ク改正ス(解説1)

東京美術學校規則

總則

第一條 東京美術學校ハ繪畫、彫刻、建築、美術工藝ノ諸科ヲ教授スル所トス

第二條 本校ニ普通科及専修科ヲ置ク

第三條 普通科ハ専修科ニ入ルノ豫備トシ其修業年限ヲ二ケ年トス

第四條 専修科ハ繪畫科、彫刻科、建築科、美術工藝科トシ其専門ノ技術家ヲ養成ス各科ノ修業年限ヲ各三ケ年トス

但建築科ハ當分ノヲ缺ク

第五條 普通科ヲ卒リ普通圖畫ノ教員タラント欲スル者ハ専修科ニ入ラスシテ特別ノ課程ニ由リ更ニ一ケ年履習セシム

第六條 普通科及専修科ノ課程左ノ如シ(解説2)  
學科課程『東京美術學校一覽(自明治廿三年九月至明治廿四年八月)』より転載)

普通科

臨畫

每週 十時

(廣ク古人ノ筆蹟ニ憑據シ線畫濃淡彩色ノ各要項ニ就キ學年ヲ逐テ之ヲ習得セシム)

寫生

全 六時

(實物ニ就キ花卉翎毛人物等ノ姿勢趣致ヲ習得セシム)

造型

全 八時

(木彫及土型蠟型等ニ由テ物體ヲ彫造スルノ法ヲ教ユ)

用器畫法

全 三時

(幾何畫法、投影畫法、透視畫法ヲ教ユ)

理科及數學

全 四時

歷史

全 二時

(本邦ノ史畧ヲ講授ス)

和漢文

全 三時

(和文和歌及漢詩漢文ニ由リテ讀法意義ヲ講授ス)

體操

全 二時

(徒手體操兵式體操ヲ教ユ)

臨畫

每週 八時

寫生

全 六時

新按

全 四時

第二年

(自己ノ意匠ヲ用テ書様圖按ヲ作ラシム)

造型 全 八時

用器畫法 全 三時

理科及數學 全 四時

美術史 全 二時

(本邦及各國美術ノ源委因革ヲ講授ス)

歷史 全 二時

和漢文 全 三時

體操 全 二時

專修科

繪畫科

第一年

臨摸 每週十六時

(古人ノ名蹟ニ就テ臨撫寫ヲ爲サシメ筆墨彩繪ヲ練習セシム)

寫生 全 十時

新按 全 十時

美術解剖 全 二時

(人躰及動物ノ筋肉骨格等美術ニ關スル解剖ノ大畧ヲ講授ス)

美學及美術史 全 二時

(美學ノ大要及普通科ニ繼續シテ美術史ヲ講授ス)

歷史及古物學 全 二時

(本邦歷史中風俗故實ノ大意及東洋ニ於ケル古物學ノ要ヲ講授ス)

ス)

第二年

臨摸 每週 八時

寫生 全 十時

新按 全 廿時

歷史及古物學 全 二時

材料及手訣 全 二時

(繪畫ニ用フヘキ各種材料ノ性質用方及手法ノ要訣ヲ教ユ)

第三年

新按 每週卅六時

建築裝飾術 全 六時

(建築用式及裝飾ノ大要ヲ講授ス)

卒業製作(解説3)

彫刻科

第一年

摸刻 每週十六時

(古人ノ名作ニ就テ摸造ヲ爲サシメ其刀法ヲ練習セシム)

寫生 全 十時

(廣ク實物ニ就キ彫造セシム)

新按 全 十時

(自己ノ意匠ヲ用テ新作及彫刻圖案ヲ作ラシム)

美術解剖 全 二時

美學及美術史 全 二時

歷史及古物學 全 二時

第二年

摸刻 每週 八時

寫生	全	六時	(漆ノ原質及漆ノ調合製造ノ法ヲ講授ス)	全	一時
新按	全	廿時	漆工史 <small>漆工專修ノ者ニ之ヲ課ス</small>	全	一時
歷史及古物學	全	二時	(漆工ノ源委因革及其傳説等ヲ講授ス)	全	二時
材料及手訣	全	四時	應用化學 <small>全上</small>	全	二時
(蠟、竹、牙、角、石、介等彫刻ニ用フヘキ材料ノ性質用方及手			(漆ノ配色化色等漆工ニ適當ナル應用化學ノ大要ヲ講授ス)	全	廿時
法ヲ教ユ)			工場實習 <small>金工、漆工ノ二課中一課ヲ撰ヒ實習セシム</small>	全	廿時
彫刻彩色法	全	二時	圖按	全	六時
(彫刻物ニ施スヘキ彩色ノ法ヲ教ユ)			造型金工專修ノ者ニ之ヲ課ス	全	十時
新按	第三年	每週卅六時	調漆法 <small>漆工專修ノ者ニ之ヲ課ス</small>	全	十時
建築裝飾術	全	六時	工場實習 <small>金工中彫金、鑄金ノ二種及漆工ノ一課ニ就テ其一種若クハ二課ヲ撰ヒ實習セシム</small>	全	廿六時
卒業製作			第三年	每週四十二時	
美術工藝科(本科ニハ當分金工、漆工ヲ設ク)			工場實習 <small>金工中彫金、鑄金ノ二種及漆工ノ一課ニ就テ其一種若クハ二課ヲ撰ヒ實習セシム</small>	全	廿六時
第一年			卒業製作	每週四十二時	
圖按	每週	六時	第七條 普通圖畫ノ教員タラント欲スルモノ、履修スヘキ特別ノ課程左ノ如シ		
(金工、漆工ニ適當ナル圖案ヲ作ラシム)			臨摸	每週十四時	
美學及美術史	全	二時	寫生	全	十時
造型金工專修ノ者ニ之ヲ課ス			新按	全	六時
(土型蠟型等ニ由テ鑄造物ノ牝型ヲ造ルヲ教ユ)	全	十一時	用器畫法	全	六時
金工史 <small>全上</small>	全	一時	數學	全	二時
(金工ノ源委因革及其傳説等ヲ講授ス)			(以上普通科ニ繼續シテ之ヲ授ク)	全	二時
冶金法 <small>全上</small>	全	二時	美學及美術史	全	二時
(合金分金等金工ニ適當ナル冶金學ノ大要ヲ講授ス)			授業法	全	二時
調漆法 <small>漆工專修ノ者ニ之ヲ課ス</small>	全	十一時			

(普通圖畫ノ教員タルニ適當ナル教授法及教育學ノ大要ヲ講授ス)

○學年及休業規程

第八條 學年ハ九月十一日ニ始リ七月十日ニ終ル

第九條 休業ハ十二月二十五日ヨリ一月七日ニ至ルニ至ルニ週間、七月十日ヨリ九月十日ニ至ルニヶ月トシ日曜日及左ノ祭日祝日ハ休業ス

一 秋季皇靈祭

一 本校設置紀念日

一 神嘗祭

一 天長節

一 新嘗祭

一 孝明天皇祭

一 紀元節

一 春季皇靈祭

一 神武天皇祭

第十條 授業ハ十一月一日ヨリ三月三十一日マテ午前第八時ヨリ始メ四月一日ヨリ十月三十一日マテ午前第七時三十分ヨリ始ム

○入學在學及退學規程<sup>〔解説4〕</sup>

第十一條 入學ノ期ハ每學年ノ始トス

但臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第十二條 普通科生徒ハ本校ニ於テ入學試験ヲ受クル者ト府縣廳ノ特選ニ係ル者トノ二種トス

第十三條 普通科ハ入學スルモノハ年齡滿十六年以上滿二十五年以下トシ品行善良身體強健ニシテ本校ニ於テ入學試験ヲ受クヘキ者ハ左ニ掲クル課目ニ合格スルモノトス

入學試験課目

(一) 讀書及作文 漢字交リ文

(二) 算術 全体

(三) 地理 大要

(四) 日本歴史 大要

(五) 臨畫若クハ彫刻摸造 流派及材料ヲ問ハス

(六) 新畫若クハ彫刻圖按 全上

第十四條 府縣廳ノ特選ニ係ル者ハ該廳ニ於テ美術上ニ望ミアリト認メ且入學試験課目中第一第二第三第四ノ課目ニ合格ノ證明ヲ為スモノニシテ其第五第六ノ課目ニ相當スル製作物ヲ本校ニ送致スルモノトス本校ニ於テ其製作物ヲ評定シ入學ヲ許否ス

第十五條 本校ニ於テ入學試験ヲ受クルモノハ試験料金壹圓ヲ本校收入官吏ニ納ムヘシ若シ自己ノ都合ニ由リ入學試験ヲ受ケサルモ既納ノ試験料ハ返付セサルモノトス

第十六條 入學志願者ハ入學願書<sup>(第一號)</sup>ニ履歷書<sup>(第二號)</sup>及試験料ヲ添ヘ本校ヘ差出スヘシ

第十七條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ正副保證人ト連署ノ在學證書

<sup>(第三號)</sup>ヲ出スヘシ

第十八條 正副保證人ハ東京市及北豊島南足立南葛飾三郡内ノ公民ニシテ生徒ノ身分上ニ付キ保證人タルニ足り且修學上ニ関涉シ得ヘキ縁故アル者ニシテ本校ノ認可ヲ得テ之ヲ定ムヘシ

但本校ニ於テ適當ト認ムル者ハ公民ニ限ラサルコトアルヘシ

第十九條 保證人又ハ副保證人事故アリテ變更スルトキ若クハ前條ノ資格ヲ失フトキハ速ニ前條ニ準スヘキ保證人ヲ以テ之ニ代ヘ更ニ在學証書ヲ差出スヘシ又三週間以上府外ニ旅行スルトキハ相當ノ代理人ヲ立テ豫メ届置クヘシ

第二十條 生徒ハ入學後一ヶ月以内ニ自費ヲ以テ本校制定ノ服帽ヲ調製着用スヘシ

第二十一條 生徒疾病其他事故アリテ一日若クハ二日缺課スルトキハ其翌日保證人ヨリ其旨届出ツヘシ引續三日以上缺課スルトキハ其理由及日限ヲ記シ當日又ハ翌日中ニ届出ツヘシ若シ病氣缺課七日以上ニ及フトキハ醫證ヲ添ヘ差出スヘシ

但一時間若クハ二時間以上缺課ノ者モ本條ニ準シ届出ツヘシ

第二十二條 學業及品行殊ニ優等ナル生徒ヲ選ヒ之ヲ特待生ト為シ一學年間ノ授業料ヲ免除ス

第二十三條 生徒學業將來成達ノ目途ナキ者ハ除名シ怠惰不行状又ハ本校ノ規則告示等ニ背反シ其他本校生徒ノ風儀ヲ紊ス等ノ者ハ其情状ノ輕重ニ依リ懲誡、停學、逐學ニ處ス

第二十四條 生徒疾病其他已ムヲ得サル事故ニ由リ退學セントスル者ハ其事由ヲ詳記シ正副保證人連署シテ願出ツヘシ

#### ○ 試業及証書規程

第二十五條 學年試業ハ每學年ノ終リニ於テ之ヲ行ヒ其成績ト平常

課業ノ成績ヲ二倍シタルモノトヲ比照シテ合格ノ者ハ進級セシム平常課業ノ成績ハ一學年間課業ノ成績ニ據リ受持教員ノ見込ヲ以テ之ヲ定メ又臨時試驗ヲ行ヒ之ヲ定ム

第二十六條 專修科中美術實技ニ関スル課目ニ於テハ受持教員ノ見込ヲ以テ學年試業ヲ施サシテ平常ノ成績ニ據リ評點スルコトアルヘシ

第二十七條 學年試業評點ハ各課一百ヲ以テ最高點トシ諸課目ノ平均六十點以上ヲ合格點トス

但美術実技ニ関スル課目ノ成績一課目六十點ニ滿タサル者又ハ他ノ課目ノ成績一課目四十點ニ滿タサル者ハ俱ニ進級スルヲ得ス

第二十八條 美術實技ニ関スル課目ノ學年試業成績評點ハ當該教員ノ意見ヲ參酌シ本校教員會議ヲ以テ之ヲ評定スヘシ

第二十九條 學年試業ニ於テ進級セサル者ハ次學年ニ於テ再修セシム尤合格ノ課目ニ限り授業上差支ナキトキハ便宜進級生ト共ニ履修スルヲ許スコトアルヘシ

但普通科專修科ヲ通スルヲ得ス

第三十條 學年試業ニ缺席ノ者ハ進級ノ格ヲ失フモノトス

但疾病其他已ムヲ得サル事故アリテ缺席スル者ハ一週間以内ニ其事由ヲ詳記シ保證人連署ノ上試業ヲ願出ツルトキハ平常課業ノ成績優等ノ者ニ限り之ヲ許スコトアルヘシ

第三十一條 專修科所定ノ課程ヲ履修シ試業ヲ完了シタル者ニハ其卒業証書ヲ付與ス

普通圖画ノ教員タラント欲シ一ヶ年特別ノ課程ヲ履修シタル者ニハ其証書ヲ付與ス

第三十二條 生徒在學中ノ學業品行等殊ニ優等ノ者ニハ卒業ノ際其  
証書ヲ付與ス

○研究科規程<sup>(解説5)</sup>

第三十三條 專修科卒業ノ生徒ニシテ猶其實技ヲ研究セント欲シ願  
出ツル者ハ適當ト認ムル者ニ限り研究生タルヲ許ス

第三十四條 研究生在學期限ニケ年以内トス

第三十五條 研究生ハ各自ノ志望ニ依リ特ニ某教員ノ指導ヲ受クヘ  
キモノトス

第三十六條 研究生ハ自己ノ新按ヲ以テ特別ノ製作ヲ爲スヘキモノ  
トス毎學年ノ末教員會議ニ於テ其成績ノ優劣ニ随ヒ第一第二第三  
ノ三種ニ評定ス

第三十七條 研究生ハ保證人ヲ要セス授業料ヲ徴取セス

第三十八條 研究生實技研究ノ為メ旅行ヲ要スルトキハ旅費ヲ給與  
スルコトアルヘシ

第三十九條 研究科ヲ修メタル者ニハ願ニ依リ其証狀ヲ與フルコト  
アルヘシ

○撰科規程

第四十條 專修科中特ニ一課目若クハ數課目ヲ撰ヒ學修セント欲シ  
入學ヲ願出ツル者ハ年齢滿十八年以上ニシテ當該教員ニ於テ試験  
シ教員會議ヲ以テ所撰ノ課目ヲ學修スルニ堪ユルト認ムル者ニ限  
リ各級正科生ニ缺員アルトキハ撰科生トシテ入學ヲ許ス

但美術實技ニ関スル課目ノ外ハ之ヲ撰フコトヲ得ス

第四十一條 本校生徒ニシテ美術上ノ實技普通科卒業以上ノ程度ヲ  
有スルモ身體羸弱等ニシテ所定ノ正科ヲ履修スルニ耐エサル者ハ

願ニ依リ試験ノ上撰科生ニ編入スルヲ許スコトアルヘシ

第四十二條 撰科生ハ所撰ノ課目ニ就テ正科生ト同シク試業ヲ受ケ  
合格ノ者ハ願ニ依リ証狀ヲ與フルコトアルヘシ

第四十三條 入學及授業料其他ノ規程ハ正科生ト同シク遵守スヘキ  
モノトス

○授業料及其他ノ費用

第四十四條 授業料ハ一學年金拾圓トシ該金額ハ九月、十一月、二  
月、四月ノ初、定日ニ於テ本校收入官吏ニ納ムヘシ

但修業年限中疾病其他已ムヲ得サル事故等ニ由リ退學スルコト  
アルモ既納ノ授業料ハ返付セサルモノトス

第四十五條 教科用ノ圖書、繪畫、彫刻美術工藝用ノ小道具及繪  
具、紙、筆等ハ總テ生徒ノ自辨トス

但實技上重要ノ器品等ハ本校ヨリ之ヲ貸付ス

第一號書式<sup>(用紙美濃)</sup>

入學願書

私儀御校ニ入學仕度履歷書相添此段相願候也

宿所

本籍族<sup>(戸主ニアラサレハ某子弟等)</sup>

年月日

姓名印

何年何月生

東京美術學校校長某殿

第二號書式<sup>(用紙美濃)</sup>

履歷書

一何年何月何地何立何學校ニ入り又ハ教師某ニ就キ何年間何學

修業云々

一何年何月何地ニ於テ何年間何業ニ従事云々

一何年何月何處ニ於テ何事ニ付賞罰ヲ受クル等

一家業何々

右之通有之候也

本籍族(戸主ニアラサレハ某子弟等)

年月日

姓名印

何年何月生

第三號書式(用紙美濃紙ニツ折)

在學證書

私儀今般入學御許可相成候ニ付在學中御規則等固ク相守リ勤學可仕候依テ右証書如斯候也

宿所

本籍族(戸主ニアラサレハ某子弟等)

年月日

姓名印

何年何月生

東京美術學校長某殿

右之者従来品行善良ノ者ニテ前文ノ趣相違無之候ニ付私共保証人ニ相立チ平常本人ノ品行等監督可致ハ勿論在學中ニ係ル事件ハ一切引受可申候依テ右保證候也

宿所

年月日 本籍族職業

保證人 姓名印

同上

副保證人 姓名印

何年何月生

前書保證人ハ本區(郡)内ノ公民ニ有之候也

年月日

某區(郡)長 姓名印

前書副保證人ハ本區(郡)内ノ公民ニ有之候也

年月日

某區(郡)長 姓名印

(本校ニ於テ適當ナリト認ル者ハ區郡長ノ證明ヲ要セス)

處務

本年一月八日本校授業始メニ付左ノ式ヲ執行ス

同日午前第八時會議室ノ中央ニ

天皇 皇后兩陛下ノ御真影ヲ奉掲シ教員事務員及生徒等一同制定ノ服ヲ着用正列シ順次奉拝シテ後生徒ニ祝意ヲ表スル絵画及彫刻ヲ作ラシメ

兩陛下御真影前ノ卓上ニ供置奉拝シテ退場セリ

四月十四日教諭今泉雄作ニ美術取調ノ為メ往復滞在共一週日以内ヲ以テ日光出張ヲ命ス 三十日生徒ノ活力検査ヲ施行ス

六月六日生徒活力検査成績表並ニ昨年九月第二回生徒募集入學ノ際施行セシ体格検査成績表等ヲ上申ス二十五日生徒修學旅行ニ関スル規程ヲ定ムル左ノ如シ

修學旅行規程

第一條 本校生徒夏期休業等ヲ以テ學術研究ノ為メ旅行スルニ付

往復瀛船瀛車賃割引ノ便利ヲ得ント欲スルモノハ旅行地方及旅行日限等ヲ詳記シテ其旨願出ツヘシ

但本校規則ニ違反シタル者又ハ本校ニ於テ怠惰不品行ト認めル者ニハ本文願出ヲ許可セサルヘシ

第二條 前條願出ニヨリ旅行ヲ許シタルモノニハ其途中瀛車瀛船割引乗船車ノ證ヲ交付ス

但本校ヨリ照會濟ノ會社等ニ属スル瀛船瀛車ニ限ル

第三條 船車賃割引證ヲ得タル後疾病事故等ニ由リ之ヲ使用セサルモノハ必ス本校ニ返還スヘシ

第四條 船車賃割引證ハ一枚一人ニ限り又之ヲ他人ニ賣買讓與或ハ貸借等ヲナスヘカラス

第五條 旅行中ハ殊ニ品行容儀ヲ儆慎シ苟モ本校生徒タルノ体面ヲ汚ス舉動アルヘカラス

第六條 前條ノ手續ヲ以テ旅行シタルモノノ歸校ノ上ハ必ス旅行中寫生等ノ製作物ヲ受持教員ニ示スヘシ

第七條 前條規程ニ背戾シタルモノハ直ニ割引證ヲ返還セシメ再ヒ旅行ヲ許サ、ルコトアルヘシ

三十日本校雇教師米國人エルネスト・エフ・フエノロサ滿期解雇ニ付七寶黛花瓶壹對ヲ贈與ス

九月二日ヨリ二十三日ニ至ル第三回生徒ヲ募集シ二十五日ヨリ二十八日ニ至ル入學試験ヲ行ヒ三十日合格ノモノ四十一人ニ入學ヲ許シ之ヲ普通科第一年生トシ十月六日ヨリ授業ヲ始ム又今回ハ規則ノ改正等ニ係リ廳府縣へ照會ノ餘日ナキヲ以テ本年ニ限り廳府縣ノ特選生募集ヲ見合セタリ

十月七日生徒證ヲ改正ス其式左ノ如シ

表 面

第 號	何府縣華士族平民
生 徒 證	姓 名
校 印	東京美術學校

縦三寸四分  
横二寸三分

裏 面

一此證ハ明治何年何月ヨリ同年何月中マテ効アルモノトス次學年ニ於テハ引換相渡スヘシ
一登校中ハ勿論修學旅行等ノ時必携帯スヘキ事
一人ニ轉貸スルヲ許サス
一汚染或ハ破損セサル様注意スヘシ
一生徒ノ卒業シ若クハ退學シタルトキハ直ニ此証ヲ返納スヘシ
年 月 日

二十五日專修科繪画、彫刻、美術工藝(金工)ノ諸科並ニ特別課程ノ時間割及各課受持教員等ヲ定メ二十七日ヨリ實施セリ(解説7) 二十八日教授今泉雄作ニ美術取調ノ為メ往復滞在共一週日以内ヲ以テ京都及奈良出張ヲ命シ雇竹内兼五郎ニ技術研究ノ為メ奈良出張ヲ命ス 三十日 文部大臣ヨリ教育上ニ關スル 勅語ノ御宸署ヲ頒布サレタリ 十一月三日天長節奉祝及勅語捧讀式ヲ行フ左ノ如シ 同日午前第九時本校第九番教室ヲ以テ式場ト爲シ中央ニ

天皇 皇后兩陛下ノ御眞影ヲ奉掲シ左右ニ國旗ヲ立テ桌上ニ御宸署ノ勅語ヲ奉置シ同十時校長及教員事務員並ニ生徒等一同制定ノ服ヲ着シ式場ニ入り正列シ順次御宸署ノ前ニ進ミ親シク之ヲ奉拜シ次テ校長捧讀席ニ着キ勅語ヲ奉讀シ且盛旨ノ在ル所ヲ訓諭シ一同

兩陛下ノ萬歳ヲ奉祝シ右畢テ食堂ニ於テ祝盃ヲ舉ケ午後一時退場セリ

二十九日帝國議會開院式ニ付臨時休業ス

十二月二十六日校長岡倉覺三奈良地方へ出張ヲ命セラル

本年中處理シタル公文往復ノ數合計五百六十五件ニシテ内收受三百八十七件之レヲ細別スレハ文部省三百十四件同省直轄學校十四件他各省四十六件各府縣十三件ナリ又發送百七十八件之ヲ細別スレハ文部省百二十七件同省直轄學校五件他各省三十五件各府縣十一件ナリ之ヲ前年ニ比スレハ六件増加セリ

### 職 員 (解説8)

本年末本校現在職員ノ數ハ兼任校長一名教授專任八名兼任一名兼任幹事一名雇教員本務十四名兼務二名書記專任一名兼任一名會計主務官文部雇事務員三名教科用圖画摸寫一名囑托教員二名教科用絵画取調等囑托一名通計三十五名ナリ之ヲ前年ニ比スレハ九名増加セリ又本校定額ヨリ支給スル職員ノ給額ハ年俸金千四百圓一名年俸金六百圓四名年俸金五百圓一名年俸金四百圓二名年俸金二百圓二名月俸金三十五圓五名月俸金三十圓四名月俸金二十圓六名月俸金十二圓三名

囑託手當一ヶ年金百二十圓二名日給金二十七錢一名通計三十一名ナリ之ヲ前年ニ比スレハ十四名増加セリ又本年中職員ノ任免増俸等左ノ如シ

三月十四日教諭文學博士黒川真頼年俸金四百圓ニ進ム 廿五日願ニ依リ中島末治ノ雇ヲ解ク 三十一日文部屬安井一匡本校書記ニ兼任

シ判任官四等ニ叙セラル雇結城正明ノ月俸ヲ金貳拾圓ニ進ム 四月二日書記平尾吉延判任官四等ニ陞叙シ下級俸ヲ給セラル 二十

三日非職農商務屬後藤貞行及東京府平民岡崎庄次郎ニ本校雇ヲ命シ月俸各金貳拾五圓ヲ給ス 二十五日雇糟屋正通ノ日給ヲ改メテ月俸

金十貳圓ニ進ム

五月三日高等師範學校助教諭市村衡次郎ニ本校体操ノ授業ヲ囑托シ手當トシテ一ヶ年金百貳拾圓ヲ給ス 十六日東京府平民正七位加納

夏雄本校教諭ニ任セラレ奏任官四等ニ叙シ年俸金貳百圓下賜セラル教諭橋本雅邦年俸金六百圓ニ進ム雇竹内兼五郎ノ月俸ヲ金參拾五圓

ニ進ム福井縣平民山田常吉ニ本校雇ヲ命シ月俸金貳拾五圓ヲ給ス 三十日帝國博物館書記川崎千虎ニ本校教科用絵画取調等ヲ囑託シ手

當トシテ一ヶ年金百貳拾圓ヲ給ス 六月廿七日文部省專門學務局長本校長事務取扱濱尾新本校長事務取扱ヲ免セラレ幹事岡倉覺三本校長心得ヲ命セラル

七月二日東京府平民石川光明同小川松民同海野竹次郎ニ本校雇ヲ命シ石川光明小川松民ニ月俸各金三十五圓ヲ給シ海野竹次郎ニ月俸金

三十圓ヲ給ス 七日埼玉縣平民劍持忠四郎ニ本校雇ヲ命シ月俸金拾圓ヲ給ス 二十一日文部屬兼本校教諭兼書記今泉雄作本官并兼書記

ヲ免セラレ年俸金六百圓下賜セラル 三十一日本校雇教師米國人ニ

ルネスト・エフ・フエノロサ満期ニ付解雇ス

八月七日幹事岡倉覺三本校教諭ニ任セラレ兼帝國博物館理事如故奏任官四等ニ叙

シ上級俸下賜セラル又本校長心得ヲ命セラル帝國博物館主事久保田

昇本校幹事ニ兼任セラレ奏任官六等ニ叙シ年俸金貳百圓下賜セラル

九月十六日東京工業學校教諭上原六四郎本校教諭ニ兼任セラレ奏任

官四等ニ叙シ年俸金四百圓下賜セラル 二十六日東京府土族荒井甲

子三郎ニ本校雇ヲ命シ月俸金貳拾圓ヲ給ス

十月七日教諭岡倉覺三奏任官三等ニ陞叙セラレ下級俸下賜セラル又

本校長ニ兼任シ奏任官三等ニ叙セラレル 〔解説9〕十五日教諭文學博士黒川

真頼本校教諭ニ任セラレ奏任官三等ニ叙シ年俸金四百圓下賜セラル

教諭兼校長岡倉覺三本校教諭ニ任セラレ兼校長如故奏任官三等ニ叙シ下級

俸下賜セラル教諭加納夏雄本校教諭ニ任セラレ奏任官四等ニ叙シ年

俸金貳百圓下賜セラル東京工業學校教諭兼本校教諭上原六四郎東京

明治廿三年末職員現在表

前年比較 減(増)	合計	教 務 員	類 別	任										雇	計								
				奏					判														
				勅任	一等	二等	三等	四等	五等	六等	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等			
二〇	〇	〇〇					三	二	五	一					二	一					四	一〇	二九
																						二〇	三五

工業學校兼本校教諭ニ任セラレ奏任官四等ニ叙シ年俸金四百圓下賜

セラル教諭橋本雅邦教諭今泉雄作本校教諭ニ任セラレ奏任官五等ニ

叙シ年俸各金六百圓下賜セラル教諭川端玉章教諭高村幸吉教諭巨勢

小石本校教諭ニ任セラレ奏任官五等ニ叙シ年俸各金五百圓下賜セラ

ル東京府土族野中銓太郎ニ雇申付日給金貳拾七錢ヲ給ス 二十八日

書記平尾旨延文部属ニ兼任シ判任官四等ニ叙セラレ又東京學士会院

書記兼勤ヲ命セラル

十二月二十二日教授川端玉章教授高村幸吉年俸各金六百圓ニ進ム

二十三日雇海野勝珉竹次郎改名雇岡崎庄次郎雇後藤貞行雇山田常吉ノ月俸

ヲ各金三十圓ニ進ム雇剣持忠四郎ノ月俸ヲ金拾貳圓ニ進ム 二十四

日東京府平民大島勝次郎同杉浦清太郎全杉浦瀧次郎ニ本校雇ヲ命シ

月俸各金貳拾圓ヲ給ス

生徒

二月七日ヨリ十五日ニ至ル普通科第一年生甲乙丙組學期試験ヲ行フ

七月一日ヨリ九日ニ至ル普通科第一年生丙組五十七人ノ學期試験ヲ

行ヒ第二年生ニ進級スル者五十二人ナリ

廳府縣級別族籍一覽表

福島	長野	岐阜	滋賀	静岡	愛知	三重	奈良	茨城	千葉	群馬	埼玉	新潟	長崎	兵庫	神奈川	京都	東京	北海道	級別			
																			縣別	府別	廳別	
																			華	第一	繪畫	
																				士	一年	專修科
																				平	生	
																				計		
																				華	第一	彫刻
																				士	一年	專修科
																				平	生	
																				計		
																				華	第一	金工
																				士	一年	專修科
																				平	生	
																				計		
																				華	第一	漆工
																				士	一年	專修科
																				平	生	
																				計		
																				華	特別	ノ課程
																				士	ヲ履修スルモノ	
																				平		
																				計		
																				華	第二	普通科
																				士	二年	生甲
																				平	生	
																				計		
																				華	第二	普通科
																				士	二年	生乙
																				平	生	
																				計		
																				華	第一	普通科
																				士	一年	生
																				平	生	
																				計		
																				華	小	計
																				士		
																				平		
																				計		
																				計		

(明治廿三年十二月末調)

合計	鹿 児 島	宮 崎	熊 本	佐 賀	大 分	福 岡	愛 媛	高 知	香 川	和 歌 山	山 口	広 島	岡 山	鳥 取	島 根	富 山	石 川	山 形	青 森	岩 手	宮 城
五															—		—				
三																					
八															—		—				
二																					
二									—												
									—												
—									—												
—									—												
—													—								
—												—									
二									—												
—																					
三									—												
—																					
二七		—		—						—	—	—				二			—		
二三				—	—									—							
四		—		二	—					—	—	—	—	—		二			—		
二																					
二九	二			—	二		—			三						—	—	—			—
二七		—											二	—	—	二					—
四八	二	—		—	二		—			三			二	—	—	三	—	—			二
—																					
三〇			三	—			—	—	—	—	—		—			—	—		—		
二三										—							—				
四四			三	—			—	—	—	二		—				—	二		—		
四																					
九四	二	—	三	二	—	四	—	—	—	—	五	—	二		—	二	五	—	—	—	—
五〇			—	—		—				—	—	—	二	二	—	二	—				—
一四八	二	—	四	三	—	五	二	—	—	—	六	二	四	二	二	四	六	—	—	—	二

九月二日ヨリ二十三日ニ至ル第三回生徒ヲ募集シ二十五日ヨリ二十八日ニ至ル入學試験ヲ行ヒ合格者四十一人入學ヲ許ス 十三日ヨリ二十九日ニ至ル普通科第二年生乙組四十八人ノ臨時試験ヲ行ヒ技術優等ニシテ同科二年生甲組へ進級スル者十五人ナリ

(解説10)

十月六日ヨリ十三日ニ至ル普通科第二年生甲組二十一人ノ學期試験ヲ行ヒ普通課業ヲ了シ専修科へ入ル者十二人内絵画科八人彫刻科二人美術工藝科二人(金工一人)又特別ノ課程ヲ履修スル者三人通計十五人ナリ 二十日本校規則第二十二條ニ據リ生徒中學業特ニ優等ノ者四人ヲ選ビ特待生トナシ本學年中ノ授業料ヲ免除ス 十一月十一日普通科第二年生乙組ヲ甲組へ丙組ヲ乙組へ編入ス 本年末現在生徒ノ數ハ百四十八人ニシテ之ヲ細別スレハ普通科第一年生四十四人第二年生甲組四十一人乙組四十八人専修科十二人特別ノ課程ヲ履修スルモノ三人皆自費ナリ其内第三回募集ニ係ルモノ四十一人内退學スルモノ一人通計百四十八人ナリ之ヲ前年ニ比スレハ三十一人増加セリ

(庁府県級別族籍一覽表、經費、書籍器械の項省略)

## 解説

### 1 規則改正

改正規則は第一回生にも適用された。改正の要点は次のとおりである。

- 一、当初開設された四科のうち、図案科を美術工芸科と改め、当分の間、伝統的金工、漆工のみの教育を行うこととした。
- 二、改正前の規則では普通科を卒えれば直ちに図画教員の資格を与えることになっていたが、これを改め、さらに特別の課程と称する教職課

程(一年間)を履修することとした。

三、学科課程は大幅に変更した。まず、普通科についていうと、基礎実技の三本柱であった画格・図案・造型の科目を臨画・写生・造型に置き替えたことが注目される。次に専修科では、まず、絵画科の場合、実技の三本柱である臨摸・写生・新案の三科目中、臨摸に多くの時間を割き、初学年で臨摸による基礎学習をたっぷり行うこととした。彫刻科の場合も同様に摸刻の授業時間を増している。学年が進むにつれて三科目の時間の配分を変え、新案の時間を増してゆくのは従来どおりだが、新案は一年繰り上げて普通科二年から課すことにしている。また、各科とも最終学年で卒業制作を行うことが明確に記された点も注目される。その他、一般教養科目は普通科課程へ組み込み、専修科課程では専門分野の充実を旨として科目編成を行うなど、全般に整備された。

四、入学試験科目のうち、学科試験に地理を加え、実技試験については、前の規則では臨画と図案若しくは彫刻摸造と、不明確な記載がなされていたが、今回、臨画若しくは彫刻摸造、新画若しくは彫刻図按の二科目であることが明記された。彫刻図按とは彫刻の下図である。

五、制服、制帽の調製、着用を義務づける条文を設けた。

六、試業及び證書規程を全般的に整理した。

### 2 学科課程

学科課程の条文は『東京美術学校一覽自明治廿三年九月至明治廿四年八月』所載の条文の方が授業要旨も附されていて詳しいので、それと差替えて掲載した。